

## 令和 5 年度 第 4 回西宮市産業振興審議会計画部会 議事録要旨

- 日時：令和 5 年 11 月 9 日（木）14 時 30 分～16 時 15 分
- 場所：西宮市役所第二庁舎 6F 会議室 B601 会議室
- 出席委員：上村委員、山下委員、古野委員、兼吉委員、清水委員、田村委員、  
金丸臨時委員、澤田臨時委員、竹内臨時委員、折田臨時委員、  
立花臨時委員、吉住臨時委員、坂倉臨時委員
- 欠席委員：中嶋臨時委員、加藤臨時委員（敬称略）
- 事務局：長谷川産業文化局長、田中産業部長、阪口商工課長  
（商工課）上田係長、中村係長、鳥居係長、中谷主査

### 1. 開会の挨拶等

- (1) 開会にあたり上村計画部会長より挨拶
- (2) 審議会成立を報告（15 名中 13 名の出席を確認）
- (3) 配布資料の確認

### 2. 議題

- (1) 「計画素案について」

事務局より配布資料を元に説明

（「・」は委員、「→」は事務局の発言）

#### 【開業・廃業】

- ・基本方針 3 における VC からの調達額については、数値の補足が難しいだろう。
- ・商工会議所の支援状況だと、IPO（株式公開）した企業はほとんどいないので、VC 調達額はほとんどないだろう。VC は IPO を狙うような企業にしか、融資しないことが多い。クラウドファンディングやふるさと納税などの指標で設定できると面白いかもしれない。
- ・創業支援による起業者数については、開業状況だけでなく、廃業状況などもヒアリングできるとよい。目標値としての設定は難しいが、そのあたりのフォローもできるとよいだろう。
- ・当行の中央研究所では、開業者に対する定点観測（アンケート）を行っており、事務局にも参考になるかもしれない。
- ・基本方針 3 に「起業しやすい環境づくり」とあるが、「起業」だけでなく、「継続」という言葉を入れると西宮らしさが出る。P36 の 3-1 起業家へのワンストップ支援（2 段落目あたり）に起業だけでなく、事業を継続する視点も記載できるとよいだろう。
- ・廃業率の高さがよくないという論調になっているが、「廃業しても新しい開業につなげていく」という文脈で重要、というニュアンスを入るとよい。

- ・廃業自体は新陳代謝を促す意味では重要であり、決してネガティブな部分だけではない。
- ・一口に廃業といっても、その背景や理由が大事である。そこは見極めないといけない。
- ・西宮北口周辺は最たる例かもしれないが、大型商業施設の立地により、地域の物販やサービス業の維持は、非常に厳しい状況に置かれているだろう。新陳代謝の過程で、隙間を新しい起業者が埋めてくれることが大事だと思っている。
- ・商店街の関係者からいえば、現状だと5年も続いたら「老舗」である。商店街での起業状況をみると、サービス業が大半であり、物販はほぼない。

### 【計画の KPI】

- ・「基本方針1：産業基盤の強化」における KPI だが、製造品出荷額が入っていないことが気になった。サービス業も含む、あらゆる産業の数値があるとよいだろう。地域経済循環図の生産額（付加価値額）がよいのではないだろうか。  
→事前に検討したが、製造品出荷額については、P9の市内総生産額を設定できればと考えている。これであれば、製造業以外も含まれる数値である。
- ・「基本方針2：地域資源を生かした産業振興」においては、西宮市の特徴である日本酒の出荷額があるとよいのではないか。  
→日本酒の重要性は認識しているが、これだけの特出するのは、市全体の政策との整合性もあり難しいところである。
- ・「基本方針3：新たな産業の担い手づくり」においては、VC（ベンチャーキャピタル）等からの資金獲得額を設定してはどうか。  
→VC（ベンチャーキャピタル）の調達額や人材確保の状況については、個別企業へのヒアリング等を通じて、定性的な側面は把握していきたいと考えている。
- ・「基本方針4：人材の確保・育成」においては、市内事業所における人材育成費用（例：研修費等）を集計することはできないか。
- ・HP等の活用率について、施策効果を図る KPI としてふさわしいのか、検討は必要である。  
→施策の情報収集の手段として、HPが多いというのが昨年度の実態調査の特徴であり、そこを伸ばすことで産業基盤の強化につながると考えている。そのため、このような KPI 設定をさせて頂いている。ただ、市政ニュースについては、市民向けの要素が強いため、KPI としての有効性は検討が必要である。
- ・市の施策 HP については、体系的にまとまっているのか。また、施策の効果を測定する方法としては、HP のアクセス数などの方がよいだろう。  
→市の HP の構造については、今後改善の余地があると思っている。
- ・HP の活用割合などは、あまり意味がない。むしろ、上村座長の指摘にもあったように、HP アクセス数にするべきだろう。施策情報を発信する特設サイト等を作成して、そこにどれくらいのアクセスがあるのか、市の担当者でも確認可能だと思われる。

- ・ふるさと納税額については、件数も必要だろう。
- ・ふるさと納税については、商品数を増やしていく方針なのか。
  - ふるさと納税は、市内事業者にとっては一種の営業ツールとして使ってもらおうことが大きく、あまり数にはこだわっていない。
- ・増やせるなら増やした方がよいだろう。一定のバラエティは必要である。
- ・従業員充足率については、アンケートやヒアリングで「〇×形式」で聞いたものだと思うが、より深く捕捉したい。目標値に対して、何%不足しているのか、方法は検討した方がよいだろう。ただ、聞く時期によっても答えは異なるだろう。
- ・別の視点としては、西宮で働くことの良さ、WELL-BEING の視点から検討することも大事である。
- ・人材育成に係るデータの補足は重要である。リクルートや研修費用にどれくらいのお金をかけているのか、気になるところである。
- ・充足率は企業規模や調査の時期によっても異なるだろうし、設定は難しいだろう。
  - 現在、「西宮市はたらきやすいまちづくりプラン」が同時並行で策定が進んでいるが、そこでのポイントは、地域企業と市民のマッチングやハローワークと連携した就労支援である。できるだけ市内で働いてもらいたいのが、支援を実施したとしても、市外に就職することもありうるので、難しいところである。
- ・市内企業の充足率については、行政の施策と違うところで決まってしまうことが多い。成果が結果に直結しない。充足率は置いておいてもよいが、市内のセミナー参加者などを対象として、アンケート等で就職につながった件数などは補足できないか。
  - 今回の産業ビジョンでは、企業側の視点で KPI が必要である。
- ・市内のセミナー参加者などを対象としたアンケート等で就職につながった件数などは補足できるのであればした方がよいだろう。

#### 【市内循環率、市内受注機会の拡大】

- ・「市内受注機会の拡大促進」は、それを補う大きな施策だと思っている。西宮自体が大きなマーケットであり、市内取引の拡大やネットワーキングの強化など、市内にお金が落ちる仕組みを作らないといけない。西宮市自体が一大企業のような感じだと思っている。
- ・Resas の循環率を KPI にするのは難しいだろうが、市内取引や循環、取引の拡大は重要な視点だろう。公共調達における市内発注割合などは重要な視点だと思っている。・他市の事例だが、市内事業者だと加点 10 点などがある。入札だとそうした工夫も難しいだろうか。
  - 大前提として、公共調達は公平性が求められる。神戸市などの政令市であれば、市内事業者だけで入札が成立するが、西宮市だとそういうわけにはいかない。これまでも入札案件がある場合は、できるだけ市内企業に入札に参加してもらうように働きかけている。また、50 万円以下の物品調達については、原則市内での調達を全庁的に進めている

る。市内調達については、庁内のガイドラインに従って実施している。市内事業者への入札は金額勝負なので難しいが、コンペであればそうした観点も取り入れられるだろう。

- ・コスト的には市外企業の方にアドバンテージがあったとしても、育成という観点では市内企業を重視することも必要になる。
- ・公共調達関連の数値を KPI にすることは難しいだろうが、重要な視点ではある。
- ・地域循環については、外には外の良いところがあるので、そこは取り入れたらよい。数値的な判断は難しいが、ある程度の競争原理を働かせつつ、取り入れるものは取り入れていけるとよい。

#### 【計画の体裁】

- ・体裁の番号やタイトルなどは最終的に整えた方がよいだろう。
- ・西宮の表記だが、「西宮」や「にしのみや」など表記が違うが、使い分けをしているのか。  
→事業名称になっているものは「にしのみや」と表記することがある。
- ・表記は、ブランディングの視点からも重要だろう。  
→表現については精査する。

#### 【学生の活用、大学との連携】

- ・学生が社会とつながることが重要であり、市内にそうした場所があるとよい。
- ・東京の大学だと、こうした部分がかなり進んでいる。西宮の状況だと、学生が何かアクションをするときに、本拠地をどうするか、など様々な問題が出てきて、学生らしさを生かし切れていない。この計画には書けないだろうが、重要な視点だろう。  
→市内 10 大学の力をどのように結集するかは大きな課題だと認識している。
- ・東京の大学だと、大学キャンパス近くの IT 企業に、学生が休み時間にインターンに行くということもよくある。こうした距離感が大事である。

#### 【企業立地奨励金】

- ・施策 1-2 企業立地奨励金制度について、他市と比べた特徴をどう出すか。そこは検討してもらいたい。奨励金制度については、具体的な業種やターゲット企業の想定が必要になる。

#### 【地域資源を生かした事業への支援】

- ・施策 2-1 地域資源を生かした事業への支援については、新たに生み出すのではなく、既存のものを発掘して表に出すことに注力してもらいたい。OB 人材と西宮の学生とコラボも取り入れながら、地域資源の磨き上げに取り組んでももらいたい。
- ・阪神南県民センターが実施しているリーディングテクノロジー事業というのがあるが、西

宮市にも上手く使ってもらってほしい。高丸工業やトリーエンジニアリングなど、市内の有力企業も参加しているので、広報に載せてほしい。

→市内の面白い企業を十分PRできていないのは、そのとおりである。HPの設計やPR方法は、これから改善していきたい。

#### 【商店街支援】

- ・施策2-3 地域に根付いた商店街の振興については、時代にあった商店街の在り方を検討してほしい。例えば、共同施設をなくし固定費を圧縮することで、広範囲の商店会に変化していくなどである。また、コミュニティ機能の維持も重要である。

#### 【その他】

- ・産業振興の専門家を設置することも重要である。
- ・行政職員の特徴として、ローテーションの頻度が高すぎる。PDCAサイクルの1回転目を経験しないうちに、異動することも多い。

#### 4. 閉会

12月下旬～1月にかけてバブコメを実施する。本日の意見をふまえて、最終的な調整を行うが、対応は座長及び事務局に一任いただくということをお願いしたい。

以 上